

## 環境保全活動

**基本理念:**トヨタは従来から環境問題への対応を経営の最重要課題のひとつと位置づけ、事業のあらゆる側面において環境保全に努めています。また、環境との調和ある成長を目指すことを経営の基本理念とし、環境と経済を両立する技術の開発・普及に取り組んでいます。

1992年には「トヨタ地球環境憲章」を制定し、翌1993年にはこれを具体的に企業活動に反映するために「トヨタ環境取組プラン」を策定しました。現在は2001年からスタートした第3次取組プランを推進中ですが、2006年4月からは新たな5ヵ年計画として、第4次「トヨタ環境取組プラン」の展開を控えています。新プランでは、中長期的視野に立って予想される環境問題を再確認した上で、1) エネルギー/温暖化、2) 資源循環、3) 環境負荷物質、4) 大気環境を4大テーマとし、開発・設計、調達・生産・物流、販売・リサイクルの各分野での具体的な取り組みを策定しています。



トヨタ白川郷自然学校の植林プログラム

**主な取り組み:**クルマの環境対策面では、持続可能なモビリティ社会を実現するため、燃費向上と排出ガス低減に最大限の取り組みを図っています。トヨタでは、次世代エンジンや新しい排出ガス低減システムの開発・導入などにより、年々着実な成果を上げています。また1997年に世界初の量産ハイブリッド車「プリウス」を発売して以来、ハイブリッド車の商品開発を積極的に展開しています。

生産工程における環境対応については、革新的生産技術の積極的導入と、日常管理の徹底による、CO<sub>2</sub>やVOC（揮発性有機化合物）の排出低減等に取り組んでいます。当期も、それらを確実に実施することにより、CO<sub>2</sub>と塗装工程のVOC排出量を計画どおり低減することができました。

リサイクル分野では、1998年にリサイクルが困難とされていたシュレッターダストのリサイクル技術を開発しています。さらに2003年には、“リサイクル実効率95%の早期達成”を目標とする「トヨタリサイクルビジョン」を公表するとともに、取り外し性を画期的に向上させた新たなリサイクル設計を開発し、新型車への採用を進めています。また2005年からの自動車リサイクル法の施行に伴い、当社では情報管理システム構築等により制度運営の中心的役割を担うとともに、シュレッターダスト、エアバッグ類、フロン類の引き取り・リサイクル等の全国的仕組みを構築し稼働を開始しました。

**環境マネジメント:**トヨタでは、クルマの開発、生産、物流、使用、廃棄・リサイクルに至る各段階での環境マネジメントの徹底を図っています。2005年からは、ライフサイクルアセスメントの考え方を踏まえた総合的な環境評価システム「Eco-VAS」(Eco-Vehicle Assessment System)を導入しました。これは車両開発の全プロセスを通じて初期段階から目標値を設定し、着実に環境パフォーマンスを高めていくためのシステムです。

当社では、2000年に「連結環境マネジメント」を導入し、国内外連結子会社と一体となった環境保全活動を展開しており、CO<sub>2</sub>、環境負荷物質、廃棄物排出量、水使用量において確実な改善を図っています。さらに現地主体の活動を充実、定着化するため、2004年10月に21カ国・31事業体・40名の海外の環境保全担当者を日本に招き、研修会を開催しました。



バイオプラスチック実証プラント

\*詳細は、ホームページをご覧ください。

(日本語) <http://www.toyota.co.jp/envrep05/>

(英語) <http://www.toyota.co.jp/en/envrep05/>